

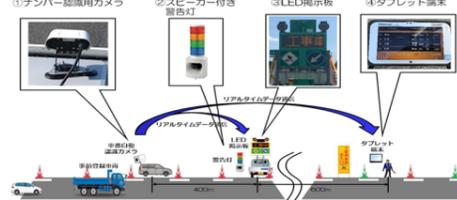
白鳥の越冬地・新潟の「潟普請」

日本道路(株)北信越支店の社員9名が、佐潟クリーンアップ活動実行委員会主催の佐潟清掃活動「潟普請(がたふしん)」に参加しました。当日はすがすがしい秋晴れのもと、実行委員会「佐潟と歩む赤塚の会」、地元・赤塚中学校の生徒の皆さんとともに、ハス復活プロジェクトに取り組まれているハス田周辺に生い茂るヨシを刈り取り、ひもで束ね、トラックへ運び出す作業を行いました。北信越支店では、昔から多くの人によって守られてきた佐潟の貴重な自然環境を次世代に引き継ぐため、今後も地域と連携してこの活動に参加していく予定です。



現場入場車両通知システムを開発

日本道路(株)と(株)ピー・エム・シーは、車線規制を伴う工事などにおいて、規制帯への工事車両の近接をより早く、確実に誘導員に伝えるために現場入場車両通知システム「via-ARGUS(アルゴス)」を開発し、運用を開始しました。工事車両入口の誘導員への車線規制帯内に入場する無線連絡が不要となり、誘導員の規制帯内へ入場する車両管理が容易になりました。



東ティール国立大学の短期研修受け入れ

独立行政法人 国際協力機構(JICA)の東ティール国立大学工学部能力向上プロジェクトに参画している山口大学工学部社会建設工学科の依頼により、舗装に関する実習を当社の技術研究所で行いました。当実習は2022年7月18日～20日に実施し、技術研究所では室内試験や現場試験を実施、また、茨城合材センターでプラント見学も行いました。当社は今後も発展途上国



の舗装技術の向上およびインフラの発展を目指し、研修や実習の受け入れを積極的に行ってまいります。

高知県より「CO2吸収証書」を授与



日本道路(株)は、2008年に高知県・梶原町の3者で「協働の森づくり事業」のパートナーズ協定を締結して以来、高知県西部・梶原町の仲間地区にある30haの「日本道路の森」において、地域産業の要である豊かな森づくりに取り組んでいます。このたび協定エリアにおいて、過去5年間の森林間伐により生み出されたCO2吸収量を「CO2吸収証書」として認定いただきました。

「統合報告書2022」発行



2029年の創立100年を見据えた上で、2030年のSDGsのゴール、2050年のカーボンニュートラル実現など様々な環境問題とESG/SDGs経営に地道に取り組む当社グループの活動を掲載しています。当社グループは2022年3月29日をもって清水建設株式会社の連結子会社となりました。今回の統合報告書では同社との連携強化やリソースの利活用を通して発揮できるシナジー効果を説明しています。ぜひご覧ください。

『NICHIDO VIEW』Vol.3について

今回は、「地域を支える災害対応」について特集しました。梅雨末期や台風シーズンになると、毎年国内のどこかの地域で洪水や土砂災害などの気象災害が発生するようになりました。「線状降水帯」や「大雨特別警報」などの単語も一般化し、これからの社会はこのような気象災害と常に向き合っていかなければなりません。いち早くライフラインを回復し、社会生活や経済活動を維持するための災害復旧体制を確保することは当然のこと、防災減災に向けた技術開発、国土強靱化への対応など、「道路会社としてできることは何か？」をこれまで以上に社会に問われる時代です。

発信力強化ワーキンググループ

NICHIDO VIEW



Vol. 3

特集 地域を支える災害対応

～中央自動車道 裏高尾地区災害応急復旧工事～



中央自動車道 裏高尾地区災害応急復旧工事



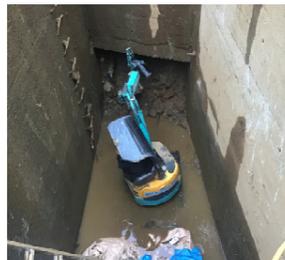
地域を支える災害対応

日本道路㈱では、豪雨・台風・地震などの自然災害により通行不能になった道路の復旧対応に貢献しています。2019年10月12日、台風19号の影響により、中央自動車道の法面が崩壊し、土砂が道路上へ流れ込みました。標識の倒壊や冠水などの被害も生じ、本線が閉鎖される事態となりました。すぐに中日本高速道路㈱（NEXCO中日本）より緊急の協力要請がかかり、昼夜連続での復旧作業を実施することとなりました。

- 2019/10/12 ● 台風19号による法面崩壊が発生
- 2019/10/13 ● NEXCO中日本 八王子支社より協力要請
- 2019/10/13 ● 復旧作業開始
- 2019/10/19 ● 復旧作業完了
- 2020/ 3/31 ● 堆積した土砂・流木の撤去完了



浸水した中央自動車道の本線



土砂が流れ込んだ排水路



静岡県や新潟県、関東甲信地方、東北地方を中心に広い範囲で記録的な大雨となりました。10月10日から13日までの総降水量は神奈川県箱根町箱根で1000ミリに達し、東日本を中心に17地点で500ミリを超えました。この記録的な大雨により、13都県に大雨特別警報が発表されました。この大雨の影響で、広い範囲で河川の氾濫が相次いだほか、土砂災害や浸水害が発生しました。



NEXCO中日本より感謝状を授与



現場代理人
伊藤係長

自然災害のすごさに圧倒

災害復旧は今回初めての経験で、現場に到着したときは自然災害のすごさに圧倒されました。NEXCO中日本八王子支社としても、1969年に中央自動車道が開通して以来初めてのことであったため、雨水排水などの資料がほとんど残っておらず、NEXCO中日本と相談しながら手探りで復旧となりましたが、通行止め解除の最低条件である土砂撤去と雨水切廻しまでは無事に1週間で完了することができました。ここまでも大変でしたが、通行止め解除後、約3カ月に及ぶ昼夜施工で高速道路下の排水路（約120m）の土砂・流木の撤去作業にはかなり苦労しました。排水路が無事に開通したときはNEXCO中日本からも大変喜ばれ、無事に完了できた安心感と同時に大きな達成感を味わえました。最後になりますが、NEXCO中日本関係者ならびに協力会社の皆さまに、心からの敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。

ご協力いただいた皆様に感謝

当工事の関係者の皆さまに、心より御礼申し上げます。10月13日の早朝、現地に到着したときは法面が崩落、本線の上下線は土砂で埋まり、標識はなぎ倒され、中央分離帯のガードレールは隣接している民家まで押し流された想像を絶する状況でした。台風19号で、神奈川・山梨両県の国道・県道でも通行止めが発生した箇所があり、人員及び資機材の手配に苦労しました。「1週間で通行止め解除」という制約もあり、その日のノルマを達成することに日々全力を注ぎました。当社だけでは対応できない場面もあり、多方面の方々にご助力いただき、何とか10月19日12：00に通行止めを解除することができました。



監理技術者
井ノ口係長